

生浜地域誌

18.11.23

第47号

発行 NPO法人ちば・

生浜歴史調査会

電話 080-

5387-2592

や石製装身具を手に持
つて古代の息吹に触れ、
この遺跡の全貌は将来
に託されました。

(今井)

活動報告☆☆☆

歴史散歩①

「生実町種ヶ谷遺跡見学会」

雨天のため

現地見学会は中止となりました。||

10月23日(火) 参加者13名

「種ヶ谷古代遺跡の概要と前調査について」

千葉市埋蔵文化財調査センター

講義||塚原勇人氏

この遺跡は、1985年の京成千原線開設調査で、奈良時代の赤青黄まだら模様
の直径7cm程の蓋のついた小壺が発見され注
目されていました。

去年の確認調査では約80軒の奈良時代の
住居跡が想定されたのですが、結果は古墳時
代後期の大型住居跡が25軒程発掘され、縄
文時代中期の竪穴住居跡が1軒出たそうです。
参加者は今回出土した土器(甑||蒸し器)

昔遊びを出前する

生浜西小学校での「昔あそび体験」

11月20日(火)

小学一年生全員へ「昔あそび」を
披露しました。けん玉・あやとり
おはじきをはじめ、こま回しや
めんこ等、ひとグループ15分
で3セット。三つの遊びを体験でき
ました。保護者のお手伝いの方々
も楽しみました。



上・けん玉遊び
右・あやとり
下・おはじき

休館のお知らせ

旧生浜町役場庁舎は、外壁の塗装
工事のため、平成
30年10月1
日〜平成31年
1月31日(予定)
の期間休館いたします。



歴史散歩②

「生実藩主の領分巡見道を歩く」

11月8日(木) 参加者14名

「領分巡見」(生実藩主の領内視察)を体感するこの企画は昨年の歴史講座で取り上げた内容に基づき歩きました。

生実く南生実く椎名崎く刈田子く落井く富岡く大金沢を歩く予定でしたがちよつと盛り沢山でしたので一部割愛して午前中で終了しました。



以下は「広報おゆみ59号」からの転載記事です。

生実のむかし ⑦

今井公子

天保九年(一八三八)十一月に三十六才で第九代藩主となった森川俊民公は、翌年八月十五日に幕府から許可が出て生実へ初めてのお国入りをします。生実役所は七月二十六日に殿様が滞在する生実陣屋や役所の修理工事などについて廻状をまわし、篠崎弥兵衛割元は初めてのお国入りには領分巡見があるので前回の案内道割や道普請(みちぶしんり道路工事)などについて村の記録を調べて提出させています。八月十日には村々の名主を集めて船橋宿への出迎え人足を割り当てし、八月二十日には江戸で雇った人夫は直ぐ帰すので、巡見人足などは以前御屋敷勤めた人夫を村々から呼び出して間に合わせることを伝え、殿様は到着の翌日四日は、祈願所・柏崎の八幡宮と御霊社(現生実神社)と菩提寺重俊院を参詣し、翌五日は村々巡見の日程を知らせました。さらに、八月二十九日には江戸から御供してきた家臣の夜具や入用品を、九月二日までに届けるよう

村々へ割り当てしてあります。

藩主一行は九月三日江戸を出発し、

船橋宿の本陣大野屋へは椎名下郷名主

弥市郎・遍田村名主市之丞のほか、椎

名上郷から左記の組頭や人足・馬が前

日二日の昼立ちで迎えに行っていました。

御台所長持人足 八人

外に用意人足 八人

御刀たんす持人足 六人

御供持持人足 三人

外に幸領二人 組頭徳右衛門 同辰五郎

御燈持人足 五人 別荘日屋より北生実名主

(関谷さん)方へ勧めること

曾我野境へは生実代官尾崎九兵衛・

篠崎三左衛門・割元篠崎弥兵衛・御蔵

元日置喜左衛門は麻上下(かみしも)

半股立(はんももち)で、代官手代二

人は紋付羽織袴の半股立、生実領・東

領の名主達十五名は羽織で出迎えます。

殿様の駕籠先で代官が名主達等の出

迎えを申し上げ、代官・代官手代・割

元達六人は先頭に付いて案内し、名主

達は殿様が通り過ぎるまで平伏してか

ら、大名行列について塩田を通り生実

陣屋に到着しました。

巡見道筋の道普請

- ① 式間道か九尺道を通行する、覆伐りなど念入りにする。
- ② 前日に通行の道へ綺麗なる砂をのし、村内は盛り砂する。
- ③ 道筋の村境へ村名を記した傍示を建てる。

＝新刊紹介＝ 「椎名上郷史料集1」は4月1日発行します。

本会の「古文書学習会」の成果を一冊の本にまとめました。400頁になろうという史料の第一弾というところ。近世の生浜地域のリアルな生活ぶりをうかがい知ることのできる1冊です。椎名の名主家の古文書から紐解(ひもと)かれる生浜の200年前の世界のひとこまをご紹介します。

領分巡見時の行列の構成

篠持
人足 (2人)

御案内
組頭 (2人)

竹幕持
人足 (2人)

拍子木持
人足 (1人)

金棒引
人足 (2人)

御案内
組頭 (複数人)

御代官
御手代衆 (1人)

御割元
篠崎弥兵衛

御代官
尾崎九兵衛

藩主
(駕籠に乗る)